

丹波「学校を核とした地域づくり」プロジェクト

# 学校を核とした地域づくり講座 第1回



2023年8月26日(土)13時30分～16時00分頃

## 今回のテーマ:「丹波市では地域と学校の協働は どのように行われているの？」

- 13:30- 開会・お知らせ 本プロジェクトの趣旨説明
- 13:50- 報告①『コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進』  
足立 恵一さん(社会教育・文化財課 係長／社会教育主事)
- 14:10- 報告②『船城地域の地域学校協働活動の取り組み』  
金川 方子さん(地域学校協働活動推進員／地域コミュニティ活動推進員)
- 14:30- 報告③『春日部地域の地域学校協働活動の取り組み』  
畑 英文さん(地域学校協働活動推進員／地域コミュニティ活動推進員)
- 15:00- グループ交流『感想・意見交換』
- 15:45- 全体交流 グループ交流から出てきた意見やアイデアを発表・情報提供
- 16:00頃- 閉会

# 社会教育士とは？

学びを通じて、人づくり・つながりづくり・地域づくりの中核的な役割を果たす。

- ・社会教育主事講習等の学習成果が、教育委員会事務局や首町部局、企業、NPO等の社会教育に携わる多様な主体の中で広く活用され、連携・協働して人づくりに活躍していくことを図るために、2020年4月から新設された称号。
- ・社会教育の体系的理解や専門性、コーディネート能力・ファシリテーション能力等の発揮が期待される。



# 特定非営利活動法人丹波ひとまち支援機構のミッション



## たんばからひととまちを支援する

地域課題はたくさんありながら、その担い手や財源は減る一方です。しかし、自らが住むまちを、自らの手で見直したり、つくり上げていくことは、やりがいや楽しみでもあります。

これからも地域社会で豊かに暮らしていくためには、これまでの仕組みのあり方を見つめ、住んでいる皆さんの形にしていくことが大切です。

たんえんでは、丹波市を拠点に、人と人を繋ぎ、まちを前向きに考えていける、変えていける仕組みづくりに挑戦します。

地域運営組織や市民活動団体への支援、生涯学習の推進を通じ、持続可能なまちづくりにむけた地域自治の再興と市民意識の醸成に挑戦するため「丹波ひとまち支援機構」2020年10月に設立しました。



# 丹波「学校を核とした地域づくり」プロジェクトの目的

丹波市では 2017年から「コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)」を導入し、各小学校に学校運営協議会を設置して「地域とともにある学校づくり」に取り組んでいます。今年度からは「**学校を核とした地域づくり／地域学校協働活動**」が丹波市教育委員会の教育実施計画の重点施策に設定されました。

学校・地域との連携・協働の推進役となる**地域学校協働活動推進員は8名**です。学校・地域・市民活動等をつなげるコーディネート役として求められるものは大きく、行政部署間の連携、推進員の人材育成、地域住民や教職員の理解促進等が課題となっています。

今年度は、「**子どもも大人も学び合い、育ち合う、誰もが楽しく参画できる地域づくりをめざして**」をテーマに、**地域と学校の連携・協働のあり方について考え、学ぶことができる機会**をつくり、地域学校協働活動に関わる人々・関心のある市民のために本プロジェクトに取り組んでいます。

# 昨年度の取り組み（のべ133人が参加）

※実施レポートは特定非営利活動法人丹波ひとまち支援機構のWEBページに掲載しています。

## ◎交流会(キックオフ)

「丹波市立南小学校の地域学校協働活動 これまでとこれから」

報告者：学校長、学校運営協議会会長、地域学校協働活動推進員

## ◎学校を核とした地域づくり講座

第1回 「地域と学校の連携・協働によりもたらされる効果」

秋津コミュニティ顧問・CSマイスター 岸裕司さん

第2回 「人づくり、地域づくりのための地域と学校の協働」

鳥取県南部町教育長・CSマイスター 福田範史さん

第3回 「“楽しく”連携・協働していくためのコツ」

NPO法人埼玉ハンズオン・真庭市立中央図書館長 西川 正さん

## ◎ふりかえり交流会(会場：丹波市立南小学校)

「子どもも大人も、学び合い、育ち合う地域になるために」

報告者：学校教職員、地域学校協働活動推進員、社会教育委員

学校教育・社会教育・地域づくり関係部署の行政職員、たんえん



# 今年度から「学校を核とした地域づくり」が本格的に始動

令和5年度丹波市の教育(実施計画の重点施策)に「学校を核とした地域づくり」が明記された。

## 5. コミュニティ・スクールの深化・充実

- ①「丹波市CSフォーラム・連絡会」による各校実践の深化・充実
- ②地域学校協働活動推進員のコーディネートによる地域の将来を担う人材の育成、地域住民のつながりを深める「学校を核とした地域づくり」の推進
- ③市民が主体的に学んだ学習の成果を「学校を核とした地域づくり」や「地域学校協働活動」にいかす

# 今年度の予定

- ①学校を核とした地域づくり講座の実施(全3回／8月、9月、10月)
- ②コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な取り組みに関するアンケート調査の実施(全小中学校向け)
- ③地域学校協働活動推進員に対するヒアリング調査
- ④ふかえり交流会の実施(2024年2月頃)
- ⑤行政への政策提言・協議
- ⑥「丹波市版地域学校協働活動ハンドブック(仮)」の作成

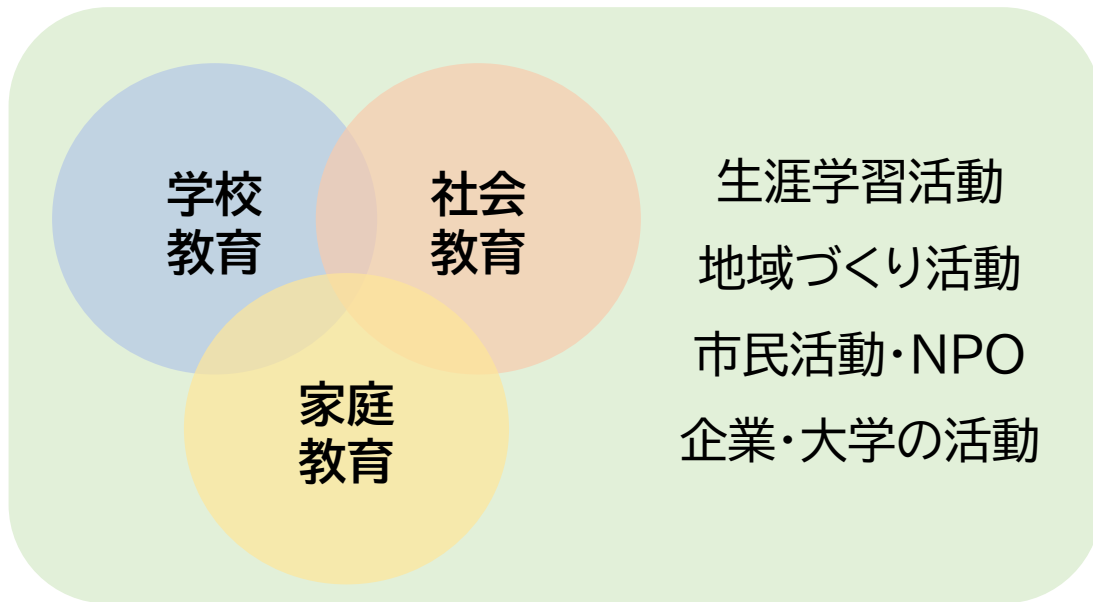
# プロジェクトを通して見えてきた課題

- **地域学校協働活動推進員の配置が進まない**  
現状:8名 / 目標値 R5:14名 R6:15名
- **学校教育、社会教育、家庭教育、生涯学習  
地域づくり部署の連携が必要**  
学校支援コーディネーター・地域学校協働活動推進員・  
地域コミュニティ活動推進員の連携や役割の整理・統合
- **地域における学びを推進する人材の育成が必要**  
社会教育士や地域学校協働活動推進員の育成
- **地域づくりを支える教育体制  
(地域教育プラットフォーム)のあり方の検討が必要**  
学びを支える社会教育施設(図書館)・地域(自治協議会)  
と学校とPTA等との連携による学び合いの場づくり





# 地域学校協働活動による地域教育プラットフォームづくり



教育行政・首長部局の横断連携体制  
(学校教育・社会教育・家庭教育・  
生涯学習・地域づくり部署)

学校・地域・PTA・家庭の連携・協働  
社会教育施設(図書館)との連携

地域教育を支えるコーディネーターの  
配置・育成  
(地域学校協働活動推進員・  
社会教育士等)

つながりづくり → 学び合い  
↑ 地域づくり ← 人づくり ↓



持続可能な地域コミュニティの基盤形成  
持続可能な地域の担い手づくり

我が国の教育をめぐる現状・課題・展望

教育の普遍的な使命：学制150年、教育基本法の理念・目的・目標（不易）の実現のための、社会や時代の変化への対応（流行）

▶ 教育振興基本計画は予測困難な時代における教育の方向性を示す羅針盤となるものであり、教育は社会を牽引する駆動力の中核を担う営み

【社会の現状や変化】

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大
- ・ロシアのウクライナ侵略による国際情勢の不安定化
- ・VUCAの時代（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性）
- ・少子化・人口減少や高齢化
- ・グローバル化・地球規模課題
- ・DXの進展、AI・ロボット・グリーン（脱炭素）
- ・共生社会・社会的包摂
- ・精神的豊かさの重視（ウェルビーイング）
- ・18歳成年・こども基本法 等

第3期計画期間中の成果

- ・（初等中等教育）国際的に高い学力水準の維持、GIGAスクール構想、教職員定数改善
- ・（高等教育）教学マネジメントや質保証システムの確立、連携・統合のための体制整備
- ・（学校段階横断）教育費負担軽減による進学率向上、教育研究環境整備や耐震化 等

第3期計画期間中の課題

- ・コロナ禍でのグローバルな交流や体験活動の停滞
- ・不登校・いじめ重大事態等の増加
- ・学校の長時間勤務や教師不足
- ・地域の教育力の低下、家庭を取り巻く環境の変化
- ・高度専門人材の不足や労働生産性の低迷
- ・博士課程進学率の低さ 等

次期計画のコンセプト

2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成

- ・将来の予測が困難な時代において、未来に向けて自らが社会の創り手となり、課題解決などを通じて、持続可能な社会を維持・発展させていく
- ・社会課題の解決を、経済成長と結び付けてイノベーションにつなげる取組や、一人一人の生産性向上等による、活力ある社会の実現に向けて「人への投資」が必要
- ・Society5.0で活躍する、主体性、リーダーシップ、創造力、課題発見・解決力、論理的思考力、表現力、チームワークなどを備えた人材の育成

日本社会に根差したウェルビーイング（※）の向上

- ・多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなるための教育の在り方
- ・幸福感、学校や地域でのつながり、利他性、協働性、自己肯定感、自己実現等が含まれ、協動的幸福と獲得的幸福のバランスを重視
- ・日本発の調和と協調（Balance and Harmony）に基づくウェルビーイングを発信

※身体的・精神的・社会的に良い状態にあること。短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念。

今後の教育政策に関する基本的な方針

①グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成

- ・主体的に社会の形成に参画、持続的社会的発展に寄与
- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善、大学教育の質保証
- ・探究・STEAM教育、文理横断・文理融合教育等を推進
- ・グローバル化の中で留学等国際交流や大学等国際化、外国語教育の充実、SDGsの実現に貢献するESD等を推進
- ・リカレント教育を通じた高度人材育成

②誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進

- ・子供が抱える困難が多様化・複雑化する中で、個別最適・協働的学びの一体的充実やインクルーシブ教育システムの推進による多様な教育ニーズへの対応
- ・支援を必要とする子供の長所・強みに着目する視点の重視
- ・地域社会の国際化への対応、多様性、公平・公正、包摂性（DE&I）ある共生社会の実現に向けた教育を推進
- ・ICT等の活用による学び・交流機会、アクセシビリティの向上

人生100年時代に複線化する生涯にわたって学び続ける学習者

③地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進

- ・持続的な地域コミュニティの基盤形成に向けて、公民館等の社会教育施設の機能強化や社会教育人材の養成と活躍機会の拡充
- ・コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進、家庭教育支援の充実による学校・家庭・地域の連携強化
- ・生涯学習を通じた自己実現、地域や社会への貢献等により、当事者として地域社会の担い手となる

④教育デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進

DXに至る3段階（電子化→最適化→新たな価値(DX)）において、第3段階を見据えた、第1段階から第2段階への移行の着実な推進

GIGAスクール構想、情報活用能力の育成、校務DXを通じた働き方改革、教師のICT活用指導力の向上等、DX人材の育成等を推進

教育データの標準化、基盤的ツールの開発・活用、教育データの分析・利活用の推進

デジタルの活用と併せてリアル（対面）活動も不可欠、学習場面等に応じた最適な組合せ

⑤計画の実効性確保のための基盤整備・対話

学校における働き方改革、処遇改善、指導・運営体制の充実の一体的推進、ICT環境の整備、経済状況等によらない学び確保

NPO・企業等多様な担い手との連携・協働、安全・安心で質の高い教育研究環境等の整備、児童生徒等の安全確保

各関係団体・関係者（子供を含む）との対話を通じた計画の策定等

# 教育振興基本計画のコンセプトと基本方針

## ◎コンセプト

- ・2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成
- ・日本社会に根差したウェルビーイングの向上

## ◎今後の教育政策に関する

### 基本的な方針

#### ③地域や家庭で共に学び支え合う社会 の実現に向けた教育の推進

- ・持続的な地域コミュニティの基盤形成に向けて、公民館等の社会教育施設の機能強化や社会教育人材の養成と活躍機会の拡充
- ・コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進、家庭教育支援の充実による学校・家庭・地域の連携強化
- ・生涯学習を通じた自己実現、地域や社会への貢献等により、当事者として地域社会の担い手となる

## 今回のテーマ（趣旨）

# 丹波市では地域と学校の協働は どのように行われているの？

地域と学校の連携・協働に取り組む行政担当者、地域学校協働活動推進員の実践報告を通して、お互いの取り組みを共有し合い、今後、地域と学校の協働のあり方についてみんなで考えます。

# 報告

## 報告①『コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の 一体的推進に向けて』

丹波市教育委員会 社会教育・文化財課係長／社会教育主事  
足立 恵一さん

## 報告②『船城地域の地域学校協働活動の取り組み』

地域学校協働活動推進員／地域コミュニティ活動推進員  
金川 方子さん

## 報告③『春日部地域の地域学校協働活動の取り組み』

地域学校協働活動推進員／地域コミュニティ活動推進員  
畑 英文さん

(各20分間)

# 報告を聞く際の視点

- 丹波市は「地域と学校の連携・協働」や「学校を核とした地域づくり」で何を目指しているのか
- 地域学校協働活動ではどのような取り組みをしているのか
- 地域学校協働活動推進員はどんな役割を果たしているのか